

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

あり いっけつ 蟻の一穴

校長 澁谷 一男

校庭の木々の若葉が、初夏の青空によく映える。ビオトープ脇の満開のツツジが、先週まで新緑に彩りを添えていた。そして、吹き渡る風の何と心地よいことか。よい季節を迎えた。

せんじょう つつみ あり いっけつ
「千丈の堤も蟻の一穴から」一どんなに丈夫に築いた堤でも、蟻が掘った小さな穴が原因で崩落することがある。



以前勤めていた小学校で、電気のスイッチの陥没が数件続いたことがあった。当時教頭だった私は、公共物を丁寧に扱うことを子どもたちに指導するよう各担任に伝えた。しかし、これに警鐘を鳴らしたのが養護教諭だった。これは「荒れ」の兆候であり、決して軽く扱ってはいけない。中学校勤務の経験がある彼女は、そう私に忠告してくれた。スイッチ陥没は要注意、中学校では常識だという。まさに「蟻の一穴」。

これを受け、全職員で、休み時間や給食準備の時間、清掃の時間など、子どもたちの見守りを丁寧に行うことにした。幸い大きな問題には発展せず、スイッチ陥没も収まった。

このように一見些細に見えることが、実は子どもたちの内面を表していることがある。例えば、児童玄関の靴箱、廊下の雑巾掛け、教室のロッカー、これらも電気のスイッチと同じことが言える。油断無きよう見守りたい。

そこで、猿橋小学校の児童玄関だが、子どもたちの登校後、整然と外履きが納められている。下校後、これまた内履きがきちんと収納してある。700名近い子どもがいて、床に一足も靴が落ちていない。同様に、廊下の雑巾掛けには、雑巾がきちんと二つ折りになって掛かっている。

こうしたことは、簡単なようでなかなか徹底しないものだ。そのことを経験上よく知っているだけに、子どもたちにもあえて話をした。靴を揃えて入れたり、雑巾をきちんと並べて掛けたりすることは、心を働かせることのできる子だ。そういうことに心を働かせることのできる子は、勉強する時も、掃除をする時も、友達と遊ぶ時も心を働かせることができる子なのだ。

靴箱や雑巾掛けに象徴されるように、現在、学校では大変落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されている。

不順な天候の中、立派にやり遂げた運動会。子どもたちは、一回りたくましくなったようだ。

1 学期も折り返しを迎える。